

普通教科『情報』の評価について

教科書・情報モラルを中心に据えた教室での座学を通して

福岡県立宇美商業高等学校 中川 修

要旨 「普通教科情報の評価をどう出していくか」、「考査を実施するならどんな方法があるか」について、私が昨年度まで勤務していた普通学校での取り組みを紹介させて頂き、忌憚ない意見やアドバイスを頂くことで、よりよい情報教育にむけたヒントを頂きたく発表致します。

1. 23 年度取り組み

【経緯】：昨年度まで勤務した筑紫中央高校には 4 年前の平成 23 年 4 月に赴任した。学習指導要領解説「情報編」にある情報教育の目標である（1）情報活用の実践力（2）情報の科学的理解（3）情報社会に参画する態度、に鑑み、生徒を被害者や加害者にさせないためにも教室での座学を通して情報モラルを徹底的に身につけさせることにした。座学をするからには普段の取り組み（ノート検査や発表、出欠、態度など）もちろん考慮するが、客観的なデータに基づいた評価を出したかった。

初年度は 1 年次「情報 A」2 単位で、私が 9 クラス担当（18 時間）し、1 学期中間・期末、2 学期中間・期末、学年末の年間計 5 回考査を実施し、360 人分採点していた。考査後最初の授業での返却は大変であったが、何とか出来ていた。

翌 24 年度から 1 年次では 1 単位履修となり、私が 10 クラス担当＋1 年「現代社会」2 単位×3 クラスの計 520 人）となったので採点は不可能と判断したが、評価の際、客観的に成績を出すために各学期 1 回は考査を実施したかった。いろいろな先生方に相談し、お話を聴くうちマークシート活用のアドバイスを頂くことが出来た。

早速、教務に相談し、マークシートでの考査を実施することを決意した。進路室にマークシートリーダーの機械があったので考査時に借りる許可をもらい、事務室にも交渉しマークシートを購入してもらうこととところから始まり、実施に到った。

2. 24 年度取り組み

2-1【カリキュラム】：24 年度～1 年「情報 A」1 単位（2 年生は前年度 2 単位だったため履修済み）

2-2【担当】：（16 時間）1 年 10 クラス＋1 年生「現代社会」2 単位×3 クラス

2-3【評価】：各学期 1 回ずつ実施した考査での点数＋ノート検査や発表、出欠、態度、実習など。

2-4【使用教材】：教科書「情報 A」（実教出版）・副教材「ケーススタディー情報モラル」（第一学習社）・新聞記事

2-5【授業】：基本は教室での座学で情報モラルに関する単元を教科書の中から選んで進めている。折に触れ情報に関する新聞記事を配布し、教科と実社会との繋がりを持たせる。またケーススタディーを使用し関連する内容を平行して進めている。実習は年間 8 時間程度である。2 学期定期考査後 5 時間（Word）、3 学期考査後 3 時間（PowerPoint）。

2-6【考査問題作成で心掛けたこと】

- ・解答の（ ）部分を通し番号にし、マークシートの番号と対応させる。
- ・一つの問題に解答を 1 個にする（アでもウでも正解という問題にしない。また出来るだけ難しくするため選択肢は 0 から 9 の 10 個から選ばせる）。
- ・マークシートリーダーで取り込んだデータは Excel で処理し、個人得点、クラス平均点、クラス最高点、学年最高点など処理しておき、Access などのデータベースソフトで個人別成績表を作る。

2-7【マークシートによる考査導入のメリットとデメリット】

【考査導入のメリット】	【考査導入デメリット】
<ul style="list-style-type: none"> ・高校 1 年次から情報を座学で進め、考査を実施する事で勉強癖を身につけさせることができる。 ・授業に緊張感が生まれる。 ・客観的なデータに基づいて成績が出せる。 ・考査後の採点が早い。 ・センターテストへ向けて、マークシートに慣れさせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マークシートは使い切り（一度しか使えない）なのでコストがかかる。 ・マークシートを読み取った後のコンピュータ処理が面倒かつ多少時間がかかる。 ・記述式の問題が出せない（マークシートに記述が付いているものも販売されています）。 ・余り勉強していなくても選択肢の中に必ず正答があるため、ある程度、点数が取れてしまう。

3. 25 年度の取り組み

25年度から1年生1単位、2年生1単位となり、800 人の採点をしなければならなくなった。当初は処理する時間が相当かかることに対し不安もあったが、試行錯誤しながら1学年処理するのに 5～6 時間程度かかるものの、概ね考査後の最初の授業時には返却することが出来ていた。

3-1 【カリキュラム】：25 年度～1 年「社会と情報」1 単位、2 年生「情報 A」1 単位

3-2 【担当】：(18 時間) 1 年 6 クラス（他の 4 クラスは非常勤の先生が担当）+1 年生「現代社会」2 単位×1 クラス+2 年生 10 クラス

4. 26 年度の取り組み

4-1 1 年生 年間学習指導計画（26 年度）

	教科書	情報モラル	実習
1 学期	情報と情報社会・社会の変化と個人の責任・情報社会の問題	ツイッター・まとめサイト・学校裏サイト・チェーンメール・誹謗中傷・スパムメール・オークション詐欺・不正アクセス	パスワードの作り方・パソコン教室の使い方・ID・PW 配布

2 学期	メディアとの特徴・メディアと広告・個人情報とその保護	ワンクリック詐欺・個人情報の流出・プライバシーの侵害・肖像権・パブリシティ権・キーロガー・フィッシング詐欺・架空請求	Word
3 学期	知的財産権（①著作権②著作権隣接権③産業財産権）	写真の著作権・音楽の著作権・映像の著作権・引用	Power Point

4-2 2 年生 年間学習指導計画（26 年度）

	教科書	情報モラル	実習
1 学期	デジタル情報の特徴・数値や文字の表し方（ビット・バイト・処理速度・2進数・16進数）・音声のデジタル化	プロフィールサイト・パスワード・パケット通信・なりすましメール・コンピュータウイルス	なし
2 学期	色のデジタル表現（画素の計算問題）・画像のデジタル化・分析の工夫・関数と統計・表とグラフの活用	ブログの信頼性・ユニバーサルデザイン・メール・Wi-Fi	Excel（相対参照・絶対参照・sum・if・sumif・countif など）
3 学期	動画と立体表現	情報モラル総合問題（章末問題から）	Premiereでの動画編集

5. 本校の教科「情報」の流れ

年度	23年度	24年度	25年度	26年度
1年	1年「情報A」 2単位 筆記での 考查	1年「情報A」 1単位 マーク シート による 考查	1年「社会と情報」 1単位 マーク シート による 考查	1年「社会と情報」 1単位 マーク シート による 考查
2年	2年生 なし	2年生 なし	2年「情報A」 1単位 マーク シート による 考查	2年「社会と情報」 1単位 マーク シート による 考查

6. 課題

- ① 調査を実施することで、素点があるので評価がしやすく、生徒から評価に関する不平不満はないが、平常点を算出するのに時間がかかる。それは1単位のため一人で担当するクラスが多く、40人×20クラス(約800人)のノート検査をしなければならないからである。しかし、ノート検査を考査後にすると成績締め切りに間に合わなくなるし、考査前に生徒に返却しなければ生徒が勉強できないため、毎学期末は大変であった。
- ② 普通科の進学校であるが、カリキュラムとしては、1年次2単位履修が望ましいことを学校に理解してもらうこと。

参考文献

- (1) 高等学校学習指導要領解説 情報編
文部科学省 平成 22 年 5 月
- (2) 高校情報 A 実教出版
平成 23 年 1 月 25 日発行
岡本 敏雄・山極 隆 他 11 名
- (3) 高校社会と情報 実教出版
平成 25 年 1 月 25 日発行
岡本 敏雄・山極 隆 他 11 名
- (4) ケーススタディー情報モラル ver6
第一学習社 2012 年 1 月 10 日発行
第一学習社編集部
- (5) ケーススタディー情報モラル ver7
第一学習社 2013 年 1 月 1 日発行
第一学習社編集部
- (6) ケーススタディー情報モラル ver8
第一学習社 2014 年 1 月 1 日発行
第一学習社編集部